

立食形式における課題と対応（席配置等）

R3.11 宮城県飲食店認証チーム

立食形式における課題

- 立食について業種別ガイドラインに記載されておらず、対応の拠り所がない。
- 椅子が無い場合、人と人との距離の確保が困難。【基準 8】
- 着席の飲食スタイルと比較して、「話す」ことのウェイトが大きいため、お酌の禁止やマスク会食を徹底する必要がある。【基準 4, 基準 15】
- 利用者が自由に移動するため、利用者の入れ替わりの都度テーブルを清拭するのが困難。【基準 12】
- 食事や飲料の提供はビュッフェ形式が想定されるため、ビュッフェ対策（使い捨て手袋着用等）を実施する必要がある。【基準 14】

課題を踏まえた基本的な考え方

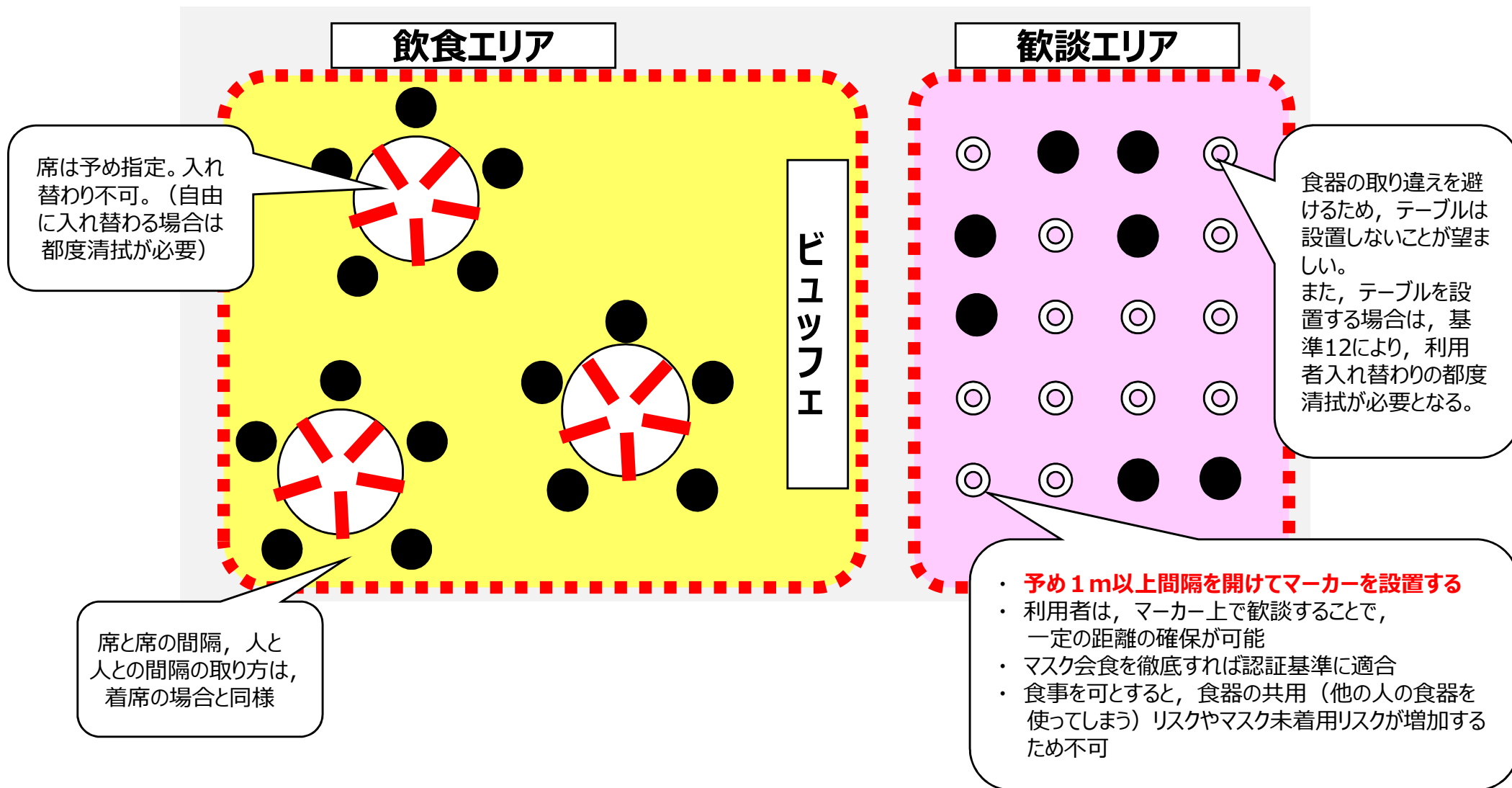
- 着席の飲食スタイルと比較して、認証基準を遵守するためには、席の管理や利用者のマスク会食等のルール徹底など、実施に向けたハードルが高い。
- 感染対策の観点から、認証制度を運営する立場としては「なるべく控えてほしい」と言わざるを得ないが、実施する場合は、次のような対応パターンが考えられる。
- 実施する場合の大方針として、**「飲食する」シチュエーションと「談話する」シチュエーションを分ける**ことが必要。

上記を踏まえた現実的な運用の考え方

- 立食形式を受注する際は、**「飲食する」シチュエーションと「談話する」シチュエーションを分ける**ことを顧客に説明し、会場の設置やその他の感染防止に関する事項について事前に打ち合わせを行う。
- 認証基準を遵守するために、席の管理や利用者のマスク会食等のルールなどを徹底する。例えば、受付時に各利用者にテーブル番号を付与するなどの方法により、それぞれの食事用テーブルを実質的に固定する。さらに大人数の立食の場合は、これに加えてエリアゾーニングの設定をお願いする。
- 料理ボード近くでの混雑や至近距離でのすれ違いを避けるために、料理を取る場合の一方通行をお願いする。
- 料理を取る場合の使い捨て手袋着用を徹底するほか、トングは定期的に交換する。
- 利用者同士のお酌やグラス持参を避ける（接触の機会を減らす）ため、「レセプタント」配置を推奨する。

飲食と歓談を両立する運用例 1

- 飲食エリアと歓談エリア（飲み物のみ可）を分ける
- 歓談エリアは、対人距離を確保するために目印を設置する



飲食と歓談を両立する運用例 2

- 飲食エリアと歓談エリア（飲み物のみ可）を分ける
- 歓談エリアは、対人距離を確保するために目印を設置する

飲食エリア（周辺に配置）

又は

歓談エリア

席は予め指定。入れ替わり不可。（自由に入れ替わる場合は都度清拭が必要）

食器の取り違えを避けるため、テーブルは設置しないことが望ましい。
また、テーブルを設置する場合は、基準12により、利用者入れ替わりの都度清拭が必要となる。

- ・ **予め1m以上間隔を開けてマーカーを設置する**
- ・ 利用者は、マーカー上で歓談することで、一定の距離の確保が可能
- ・ マスク会食を徹底すれば認証基準に適合
- ・ 食事を可とすると、食器の共用（他の人の食器を使ってしまう）リスクやマスク未着用リスクが増加するため不可

席と席の間隔、人と人との間隔の取り方は、着席の場合と同様

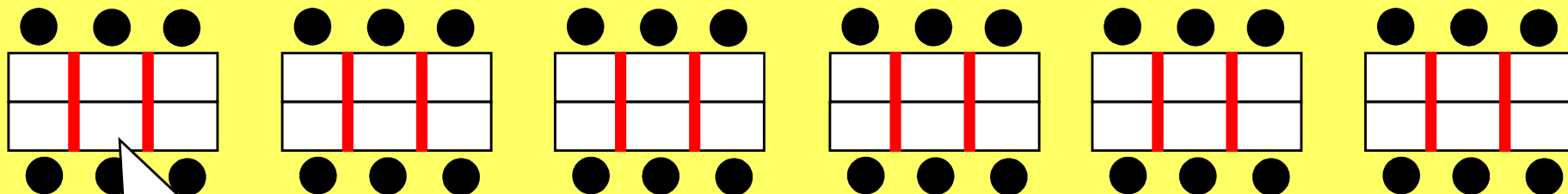
ビューッフェ

ビューッフェ

飲食と歓談を両立する運用例 3

- 飲食エリアと歓談エリア（飲み物のみ可）を分ける
- 歓談エリアは、対人距離を確保するために目印を設置する

飲食エリア（周辺に配置）



席は予め指定。入れ替わり不可。（自由に入れ替わる場合は都度清拭が必要）

ビューフェ

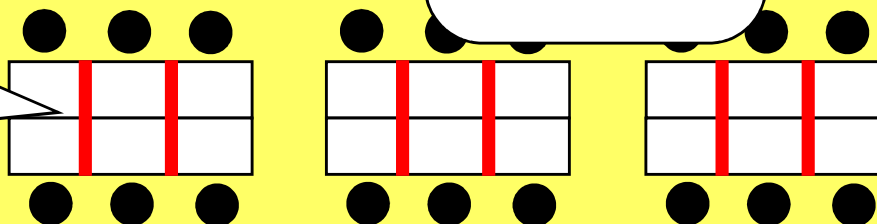
食器の取り違えを避けるため、テーブルは設置しないことが望ましい。
また、テーブルを設置する場合は、基準12により、利用者入れ替わりの都度清拭が必要となる。

歓談エリア

- ・ **予め1m以上間隔を開けてマーカーを設置する**
- ・ 利用者は、マーカー上で歓談することで、一定の距離の確保が可能
- ・ マスク会食を徹底すれば認証基準に適合
- ・ 食事を可とすると、食器の共用（他の人の食器を使ってしまう）リスクやマスク未着用リスクが増加するため不可

ビューフェ

席と席の間隔、人と人との間隔の取り方は、着席の場合と同様



飲食と歓談を両立する運用例 4

- 飲食エリアと歓談エリア（飲み物のみ可）を分ける
- 歓談エリアは、対人距離を確保するために目印を設置する

